

趣旨説明

—千葉市・加曽利貝塚博物館の加曽利E式土器研究の流れ—

千葉市立加曽利貝塚博物館 青笹早季

2024年は、大正13（1924）年に東京帝国大学人類学教室による加曽利貝塚E地点・B地点の発掘調査が行われてから100年目にあたります。この調査は、場所によって出土する土器に違いがあることを認識する契機となった画期的な調査で、後の縄文土器研究の進展に大きく寄与しました。この点をふまえ、今年度を発掘調査100周年と位置づけて、加曽利E式土器研究の現在とこれからに焦点を当て、年間を通して様々な催しを企画しました。本シンポジウムは、その一環となる事業です。

本趣旨説明では「1. 加曽利E式土器と企画展について」「2. 加曽利貝塚E地点・B地点について」「3. 加曽利E式の表記について」の順に説明し、その後、各講師の講演の概要について紹介しました。

1 加曽利E式土器と企画展について

加曽利E式土器は、縄文時代中期後半に、関東地方を中心に分布する土器型式です。東北や中部地方でも発掘され、少数ですが西日本でも発見されています。全国的に知られている土器型式ですが、100年前に行われた、加曽利貝塚のE地点の調査成果に基づいて名付けられています。このことから、加曽利貝塚は、加曽利E式土器の「標式遺跡」と呼ばれています。

加曽利貝塚の名前がつく土器は、加曽利E式土器のほかに、加曽利B式土器があります。加曽利E式土器は、中期後半の土器で、深鉢が主体であり、丸みのある口縁部とくびれた頸部・ふくらんだ胴部をもつという特徴があります。加曽利B式土器は、後期中頃の土器で、小型の深鉢・壺・注口土器など器の種類が増えます。

加曽利貝塚博物館では、平成30（2018）年度以来、加曽利E式土器を主題とした企画展「あれもEこれもE—加曽利E式土器—」を開催しております。令和5（2023）年度までの6年間に房総半島全域を網羅し、111ヶ所の遺跡から出土した土器を延べ389点展示しました。県内を千葉市域、印旛地域、北西部地域、内房地域、外房地域と大きく5つの地域に分け、千葉市内のみ2回展示を行いました。令和6（2024）年度は、これまでの企画展の成果を踏まえ、総括として、「あれもEこれもE—加曽利E式土器（総括編）—」を開催しました。

2 加曽利貝塚E地点・B地点について

加曽利貝塚で初めて行われた発掘調査は、明治40（1907）年の東京人類学会の遠足会という名目の調査です。この調査は、当時関東地方の貝塚で注目されていた、古人骨を集めることを大きな目的とした調査でした。この調査をきっかけに、貝塚の規模が大きいことや保存状態が良好であることが確認され、加曽利貝塚は「日本一の貝塚」として多くの人に認識されるようになりました。

大正11（1922）年には大山柏という考古学者により、初めての地形測量が行われ、のちにそれを元に加曽利貝塚の中にA～Dの4地点が設定されています。このときの調査成果が発表されたのは、昭和11（1936）年に発掘調査した結果と合わせて、昭和12（1937）年のことでした。

考古学的な手法を用いた加曽利貝塚での初めての発掘調査が、大正13（1924）年に東京帝国大学人類学教室によって行われた調査です。小金井良精を中心として、当時の若手研究者が集まって調査を行いました。写真に写っている山内清男氏、甲野勇氏、八幡一郎氏は、これ以降縄文土器研究を主導していきます。このとき、広大な遺跡の中にA～Eの5地点を設定して調査が実施されましたが、測量技術が未発達だったこともあり、その正確な位置は特定できていません。近年、千葉市教育委員会と早稲田大学が共同で地中レーダー探査（GPR）調査等を行った結果、B地点は南貝塚の西側付近（現在の南貝塚貝層断面観覧施設の周辺）、E地点は北貝塚の東側（坂月川を望む貝層東斜面）である可能性が出てきました（スライド16ページ）。場所の候補については、まだ他にも検討の余地があります。

大正13（1924）年の発掘調査で加曽利貝塚E地点から出土した土器は、のちに縄文時代中期後半の「加曽利E式土器」、B地点から出土した土器は、縄文時代後期中頃の「加曽利B式土器」と命名されました。発掘に参加していた山内清男は、発掘調査の15～16年後に出版された『日本先史土器図譜』の中で、典型的な標本資料として加曽利E式・B式土器の特徴を詳しく記述しました。

なお、山内氏が「下総上本郷貝塚」（『人類学雑誌』43-10所収）の中で言及した加曽利貝塚の発掘調査成果について、シンポジウム当日の私の発表の中で「加曽利D地点にて、下層で加曽利E式、上層で加曽利B式が出土した」とご説明しましたが、正しくは「加曽利B地点にて、下層で加曽利E式、上層で加曽利B式が出土した」となります。お詫びして訂正いたします。山内氏は、B地点の調査で「加曽利（E）、堀の内、加曽利Bの年代的序列を認めた」と記述しています。

また山内氏は、『日本先史土器図譜』IXの中で、加曽利D地点出土の加曽利E式土器と、加曽利E地点出土の加曽利E式土器に差（磨消縄文の有無）があることを指摘しており、これが加曽利E式土器の型式細分の出発点となっています。

3 加曽利E式の表記について（記録集310ページ）

ここでは、加曽利E式土器の主な分類方法を複数記載しています。このように、分類の仕方によって、どのように区分するかが少しずつ異なっています。この違いがどのようにして生まれたのか、そしてそれぞれの分類方法はどこが違い、どこが同じなのかを検討することを、今回のシンポジウムの大きな目的としました。

2日間にわたり、多くの皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。

本シンポジウムの成果は、今後の博物館機能の充実をはじめとする、特別史跡加曽利貝塚の整備に活かしてまいります。

※参考・引用文献はスライド28ページ参照

趣旨説明



千葉市・加曽利貝塚博物館の 加曽利E式土器研究の流れ

千葉市立加曽利貝塚博物館
青笹 早季

1

趣旨説明



本発表の構成

1. 加曽利E式土器と企画展について
2. 加曽利貝塚E地点・B地点について
3. 加曽利E式の表記について

2

趣旨説明①

趣旨説明

はじめに



- ◆大正13（1924）年
東京帝国大学人類学教室による
加曽利貝塚E地点・B地点の
発掘調査
- ◆今年（2024年）は発掘調査100周年

3

趣旨説明



加曽利E式土器と
企画展について

4

趣旨説明

加曽利E式土器



- ◆縄文時代中期後半
- ◆関東地方を中心として広く流行
- ◆「E地点」の調査成果に基づく
- ◆加曽利E式土器の「標式遺跡」

5

趣旨説明

“加曽利”の名前がつく土器



加曽利E式土器

縄文時代中期後半



加曽利B式土器

縄文時代後期中ごろ

6

趣旨説明③

趣旨説明

企画展

あれもEこれもE—加曽利E式土器—

100th
Kasori E & B
Anniversary Since 1924

- ◆平成30（2018）年度から
- ◆県内を5地域に区分
千葉市内は2回展示
- ◆対象遺跡 111ヶ所
- ◆展示資料 延べ389点

7

趣旨説明

平成30年度企画展

あれもEこれもE

加曽利E式土器

（千葉市内編）

2019年 3/3⑩
入場券スペース

加曽利貝塚博物館

あれもEこれもE
加曽利E式土器
千葉市編2

加曽利E式土器と
その未開たち

18日・2日
36日・3日

千葉市立加曽利貝塚博物館 企画展示スペース

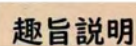
2022年 11月22日・2月19日（入場無料）
2023年 12月29日・1月30日（入場無料）
9:00-17:00開館（最終入場16:30）
12月29日・1月30日は午後入場無料

あれもEこれもE
加曽利E式土器

12月29日・30日
3月10日・11日

千葉市立加曽利貝塚博物館 企画展示スペース

8



加曾利貝塚
E地点・B地点について

趣旨説明

大正13(1924)年以前の調査



明治40(1907)年調査風景

11

趣旨説明

大正13(1924)年以前の調査



- ◆大正11(1922)年
大山柏による測量調査
- ◆報告したのは昭和12(1937)年
昭和11(1936)年に発掘調査し
その結果と合わせて報告

12

趣旨説明



Eig. 2 加曾利貝塚一覽圖

大山史前学研究所による測量図

E地点は
このあたりに
1924年発掘時
に設定

大山史前学研究所1937「千葉縣千葉郡村加曾利貝塚調査報告」『史前学雑誌』第9巻第1号 (Eig.2加曾利貝塚一覽圖)に一部加筆

13

趣旨説明



小倉台駅→
Kasori E & B
Anniversary Since 1924

14

趣旨説明⑦

趣旨説明

測量調査の成果



- ◆ 全国に先駆けた貝塚の
地形測量調査
- ◆ 貝塚の形がほぼ明らかに
- ◆ この測量結果に基づき
大正13（1924）年の発掘調査

15

趣旨説明

100年前の 発掘調査地点 の候補地

D地点

B地点

E地点



加曾利貝塚博物館展示パネルに、
高橋健三郎ほか 2022・2023を
参考に一部加筆

16

趣旨説明

100年前の発掘調査の成果



- ◆加曽利B地点の
下層で加曽利E式、
上層で加曽利B式が出土
→土器の新旧関係を
捉える



加曽利B式
縄文時代
後期後半

約3900～
3400年前



堀之内式
縄文時代
後期前半

約4200～
3900年前



加曽利E式
縄文時代
中期後半

約5000～
4500年前

趣旨説明

100年前の発掘調査の成果



- ◆地層の上下関係で新旧を判断
する「層位学」に基づく発掘
- ◆「近代考古学研究の出発点」

趣旨説明

加曾利E式土器の紹介



◆ 山内清男編 昭和14(1939)年
『日本先史土器図譜』

「加曾利E式は関東地方縄紋土器中期
の後半に当る土器型式群であって、
大正十三年下総国千葉郡都村加曾利
貝塚E地点発掘の土器を標準として
指摘されたものである。」

19

趣旨説明



加曾利E式の表記について

20

趣旨説明

「加曽利E式」の表記

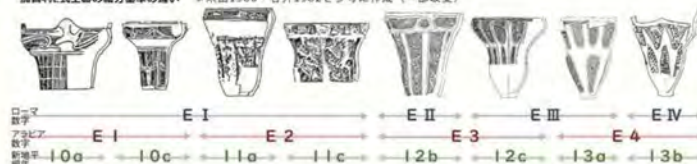


- ◆ 加曽利E式土器は、古い時期から新しい時期まで、4つの時期に細分することが一般的だが、細分の基準は研究者によって異なる。
- ◆ 代表的な表記方法には
 - ・ ローマ数字によるもの
 - ・ アラビア数字によるもの
 があるが、その他の表記方法もある。

21

趣旨説明

加曽利E式土器の細分基準の違い ※米田1980・谷井1982を参考に作成（一部改変）



加曽利E式土器の細分・表記の対応 ※大内2008をもとに小林2019を加え作成

加曽利貝塚 総括報告書	勝坂 阿玉台末 ／加曽利E1初	E I				E II				E III		E IV	
ローマ数字 (岡本ほか1965)		E I				E II				E III		E IV	
アラビア数字 (山内1969)		E 1		E 2				E 3				E 4	
埼玉編年 (谷井ほか1982)		IXa	IXb	X	XI	XIIa		XIIb		XIII	XIV		
新地平編年 (黒尾ほか1995)	9c	10a	10b	10c	11a	11b	11c1	11c2	12a	12b	12c	13a	13b
実年代編 (小林2019)	40年	20年	40年	30年	45年	45年	20年	20年	30年	100年	60年	25年	25年

※中略語類型は勝坂・阿玉台末／加曽利E1初に含まれます。

参考文献

- 石井 真 2012『加賀原遺跡 佐江戸8遺跡』（公財）横浜ふるさと歴史財団
 岡本 勇ほか 1965『縄文文化の発展性と地域性—関東—』『日本の考古学』Ⅱ 河出書房新社
 山内清男 1969『縄文草創期の諸問題』『MUSEUM』224号 東京国立博物館
 米田明則 1980『南信天竜川沿岸における縄文時代中期後半の土器編年—所謂「唐草文土器を中心として」—』『甲斐考古』17巻第1号 山梨県考古学会
 谷井 尚ほか 1982『縄文中期土器群の再編』『研究紀要 1982』財団法人埼玉県縄文文化財調査事業団
 大村 祐 1998『勝坂V式・阿玉台IV式から加曽利E式への転換期の諸問題』『下総考古学』15 下総考古学研究会
 大内千年 2008『千葉県における小規模集落の分析—中期後葉土器編年に関する補足・市原市中沢ヶ丘遺跡の事例を手がかりに—』『縄文研究の 新地平（続）—登穴住居・集落調査の リサーチデザイン』株式会社六一書房
 黒尾和久ほか 1995『前提1』多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定』『シンポジウム 縄文中期集落研究の新地平（発表要旨・資料）』縄文中期集落研究グループ 宇津木台地区考古学研究会
 小林謙一 2019『縄文時代の実年代講座』株式会社同成社
 千葉市教育委員会 2017『史跡 加曽利貝塚 総括報告書』

22

趣旨説明①

趣旨説明

本シンポジウムの趣旨



- ◆ 加曽利 E 式土器研究の端緒となった加曽利貝塚
- ◆ 後の縄文土器研究の進展に大きく寄与
- ◆ 「発掘調査100周年」と位置づけ、加曽利 E 式土器研究の現在とこれからに焦点を当てる

23

趣旨説明

「加曽利」「縄文」の表記



縄文時代研究では、各研究者の研究方針によって

- 「加曽利」と「加曾利」
- 「縄文」と「縄紋」

の表記を混在して使用する。

本シンポジウムの各講師の講演や
予稿集の文中では、講師の研究方針に
沿った表記となっている。

24

趣旨説明



各講演について

25

趣旨説明

1日目の講演内容



1日目 11月23日(土・祝)

9:20 - 9:25	挨拶
9:25 - 9:50	【趣旨説明】 千葉市・加曾利貝塚博物館の加曾利E式土器研究の流れ 千葉市職員
9:50 - 10:10	【前提説明】 加曾利E式土器の細分になぜ混乱が生じたのか？ 大村 裕 下総考古学研究会 代表
10:10 - 11:10	【基調講演】 縄文中期加曾利E式土器の型式編年と年代 小林 謙一 中央大学文学部 教授
11:20 - 12:20	山内清男の加曾利E式土器と「中峠式土器」 大村 裕 下総考古学研究会 代表
13:10 - 14:10	房総の加曾利E式期前半の土器について 館 祐樹 (公財)千葉県教育振興財団 文化財センター調査第一課
14:10 - 15:10	南武蔵・相模における加曾利E式「古い部分」～その細別観点と表記について～ 黒尾 和久 国立歴史民俗資料館
15:25 - 16:25	関東地方北東部における加曾利E式出現期の土器様相 塚本 師也 益子町教育委員会生涯学習課
16:35 - 17:00	質疑応答・討論

26

趣旨説明

2日目の講演内容



2日目 11月24日(日)

9:30 - 10:30	房総の曾利式系土器－加曾利E3式に伴う斜行文・重弧文土器を中心に－ 大内 千年 千葉県教育庁教育振興部 文化財課
10:30 - 11:30	房総の連弧文(系)土器について 大網 信良 (公財)東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター調査研究部調査課
12:30 - 13:30	下総台地における加曾利EIII・IV式土器の編年学的研究の現状と課題 加納 実 千葉県教育庁教育振興部 文化財課
13:30 - 14:30	房総における中期末葉から後期初頭の土器様相 小澤 政彦 (公財)千葉県教育振興財団 文化財センター調査課一課
14:45 - 15:45	加曾利E系列の土器群(統)－加曾利E式の堀之内式への継承－ 稲村 晃嗣 株式会社 西門文化財
16:00 - 17:00	質疑応答・討論

ご来場の皆さまへおねがい

- ・講演中の画像・配付資料等を、許可無く複製・撮影や、インターネットへアップロードすることはご遠慮ください。
- ・ご不明な点は加曾利貝塚博物館 (043-231-0129) までお問い合わせください。

27

趣旨説明

参考・引用文献



- 大山史前學研究所1937「千葉縣千葉郡都村加曾利貝塚
調査報告」『史前學雜誌』第9巻第1号
- 山内1928「下総上本郷貝塚」『人類學雜誌』43-10
- 山内1940「加曾利E式」『日本先史土器図譜』IX 先史考古学会
- 西田泰民2014「1924年の加曾利貝塚調査」『Anthropological
Science(Japanese Series)』Vol.122(2)
- 千葉市教育委員会2017『史跡加曾利貝塚総括報告書』
- 高橋龍三郎ほか 2022「第5次加曾利貝塚デジタル
三次元測量・GPR レーダー探査調査概報」『早稲田
大学文学研究科紀要』第67輯
- 高橋龍三郎ほか 2023「第6次加曾利貝塚デジタル
三次元測量・地中レーダー探査(GPR) 調査概報」
『早稲田大学文学研究科紀要』第68輯

28